

令和7年度 海西地区福祉活動計画評価表

スローガン	地域のネットワークで安全安心な海西	
重点課題	弱者の危険からの回避 高齢者のコミュニティへの参加推進	
事業名	推進方法	評価
地域見守りネットワーク 推進事業	○子ども達の見守りを行う。 ・安心して児童、生徒が登下校できるよう、地域全体で見守り活動を行う。 ・各自治会役員、民生委員児童委員、福祉推進委員、地区社協役員を中心に、毎月第一登校日に通学路に立ち、安全を見守る。	○
	○高齢者の見守り活動を行う。 ・ひとり暮らし高齢者宅及び高齢者世帯へふれあい訪問を実施する。	○
	○高齢者を囲む会を開催する。 ・自治会役員、民生委員児童委員、福祉推進委員などの協力で、ひとり暮らし高齢者（70歳以上）、高齢者世帯（75歳以上）を対象に、海西地区「高齢者を囲む会」を実施する。	○
現状及び今後の方針		
○子どもたちの見守り活動 地区社協として毎月第一登校日に行う。各地区で海西小学校の児童の登校時の見守り活動を行った。地域の方に児童の下校時の見守りも行ってもらった。今後も継続して活動していきたい。 ○高齢者の見守り活動 ひとり暮らし高齢者宅にふれあい訪問をした。各地区の自治会長・民生委員児童委員・福祉推進委員でひとり暮らし高齢者宅・高齢者世帯を訪問し、感染症防止のマスクなどを持参し、声かけを行った。 ○高齢者を囲む会の実施 自治会役員、民生委員児童委員、福祉推進委員の協力で、ひとり暮らし高齢者(70歳以上)、高齢者世帯(75歳以上)を対象に、「海西地区高齢者を囲む会」を海西公民館で行った。わかば海西こども園の園児との交流会もあり、ひ孫みたいな子どもたちと楽しくすごすことができた。		

《評価》 ○計画どおりできた △計画の一部ができた ×計画どおりできなかった

令和7年度 海西地区福祉活動計画評価表

スローガン		地域のネットワークで安全安心な海西
重点課題		地域の交流の希薄
事業名	推進方法	評価
三世代交流の推進事業	○三世代交流事業を推進する。 にこにこ子育て支援事業を推進する 自治会役員、民生委員児童委員、福祉推進委員、子ども会との連携や三世代交流事業の活発化を図るため、にこにこ支援事業を活用して子どもから高齢者、障がい者まで幅広く交流が図れる行事などを行う。 海西地区三世代交流レクリエーション大会	○
	○サロン活動を推進する。 自治会役員、民生委員児童委員、福祉推進委員、海津いきいきクラブと連携を図りながら、閉じこもりがちなひとり暮らし高齢者や障がい者のみなさんが、気軽に地域交流ができるようサロン活動を推進する。また、サロンの立ち上げ活動の支援(サロン活動未地区へのアドバイス)などを行う。	○
	○視察研修を行う。	○
現状及び今後の方針		
○三世代交流事業の推進 三世代交流事業を行った。にこにこ子育て支援事業を活用して、育成会・子ども会と協力し小・中学生・保護者・高齢者まで一同に参加して海西小学校で「レクリエーション大会」を行った。岐阜聖徳学園大学の学生たちから指導を受けながら楽しく活動ができた。幅広い交流もはかれた。 ○サロン活動の推進 広域サロン活動は、対象者の交通手段の確保が難しく、実施が見込めていない。今のところサロン活動がない地区においては、「ミニサロンから始めましょう」とアドバイスをもらった。サロン活動が各地区に広がっていくようにはたらきかけようと思う。 ○視察研修の実施 平田町にある住宅型有料老人ホーム「天の花」へ施設訪問をした。施設長の話を聴き、施設内を見学させてもらい、有意義な時間をすごした。		

《評価》 ○計画どおりできた △計画の一部ができた ×計画どおりできなかった

令和7年度 海西地区福祉活動計画評価表

スローガン	地域のネットワークで安全安心な海西
-------	-------------------

重点課題	各自治会の防災意識の欠如
------	--------------

事業名	推進方法	評価
防災意識(知識)向上及び 防災啓発の推進事業	○防災について研修会を行う。 ・自治会役員、民生委員児童委員、福祉推進委員と協力して、消防署の職員や専門家を招いて防災に対する知識や技術などを学ぶ。講座を充実して、専門的な話が聴けるとよい。 ・地域住民自身が、災害をより身近なものであると認識し、危機管理意識を高める。	○
	○防災対策 ・自治会役員、民生委員児童委員、福祉推進委員、地区内在住防災士、他団体と連携を図りながら、具体的な避難場所、防災備品などの検討や危険個所の確認をする。	△
	○避難所運営訓練を行う。 ・自治会役員、民生委員児童委員、福祉推進委員、他団体と連携を図りながら、避難所運営訓練を行う。	×

現状及び今後の方針
○防災について研修を行う 防災研修は各自治会でいった。備蓄の入れ替えなどを行った。地域住民が防災をより身近なものと認識し、危機管理意識を高めていくため、共通課題として考えることができるような「場」があるとよい。 ○避難所運営訓練を行う 時期が違う2回(2日間)を予定をしていたが、1回目は熱中症予防のため、2回目はインフルエンザ流行のため行うことができなかった。今後は、時期を考慮しながら計画・実行したい。

《評価》 ○計画どおりできた △計画の一部ができた ×計画どおりできなかった